

『一心千里』

走って行けば、 見えてくる

永田 隆一



■ 第15回 ■

敬老思想の共通認識の土壌そのものが、かなり脆弱といわざるを得ません。

《若者の成長意欲》

一般的に、前向きな若者は自分の成長を欲するものであります。そして、自己顕示欲と自己嫌悪感の狭間で、揺れながら成長していくのが相場であ

ス業界。日本の大学生のエレクトロニクス業界への就職者数のデータが物語っております。1980年代後半、93年までは2万5000人、94年、2002年までは1万人。そして、03年以降は7000人前後であります。この20年で3分の1への激減であります。

IKAJIMERYO。日本は、1979年より中国に対し、円借款3兆円、無償資金協力を1500億円、無償技術協力を1500億円実施してきました。

さて、中国の国旗「五星紅旗」は1949年に制定されました。紅は革命、大きな星は中国共産党、小さな星4つは労働

憤慨やるかなしであります。

中国軍事施設を撮影したという理由で逮捕されたという理由で逮捕された日本企業の社員4人は、日本の戦後処理の環境で、日本の税金を使っ

て、旧日本軍の廃棄した毒ガスの処理調査に当たっていたのであり、良心に基づく無償技術協力の一環を、ありえない悲劇が襲ったのであります。

《外交は長老の知恵》

国と国との外交は、水面下での情報収集能力と交渉術がほぼすべてであります。外交とは、まさに長老の知恵が必要な敬老世界であります。

中国は、日本のバブル経済の崩壊をよく研究し、プラザ合意以降の急激な円高が直接の原因と総括しています。ゆえに、人民元を米ドルにペグ

(PEG=ぴったりと張り付くこと=株式用語)させて、知らぬ顔をしていきます。

NHKが放送したスクープ・ドキュメントで、佐藤栄作元首相が初めて非核三原則をスピーチするまで、アメリカ・西ドイツに対して日本は核製造の方向性を検討し、原子爆弾数個なら容易に短期間で製造できると発表

することで、中国・インドを押しさへたいとの主張を継続しました。結局、日米同盟の範囲をアメリカは、アメリカの核の傘で日本を守るとの約束を取り付けることに成功して、一転、非核三原則の決定、ノーベル平和賞へと繋がったようです。

政治には、長老の知恵が間違いなく必要である世界と考えます。

(毎月掲載)

好みのタイプの女性は？

やっぱり年上の女性です

昭和61年に鹿児島県の重千代さんが、120歳でみまかれた時、テレビのニュースでは「これ江戸時代に生まれた方はいなくなりました」と表現していました。ところが最近、江戸時代生まれの多くの方が戸籍上では存命と記録されているという話題から「年金詐欺」という何とも暗い話へつながっていき、やるせない気持ちになられた方も多かったのではないのでしょうか。

《敬老思想を考える》
「やっぱり年上の女性」という言葉に引っかかりました。考えてみますと、古典芸能の世界や、宮大

数年では決して一人前になれないという共通認識があることでしょうか。何十年と経験に裏打ちされた知恵や巧みという技が、結果に直結する社会であるからであります。

かたや、技術革新の目まぐるしいエレクトロニクス業界では、技術の陳腐化のスピードが速く、

りました。その際、敬老思想の共通認識のある社会では、とても説得力のある知恵を有するお年寄りがあること、若者は明確な進むべき方向を思い描けるのであります。

かたやエレクトロニク

《五星紅旗を掲げる国》
中華人民共和国は、最近20年で国内総生産を11倍に成長させました。いまや国防費は日本の2倍です。新規円借款プログラムは07年で終了し、残

るはODAという名のM

者・農民・知識階級・愛国的資本家を指しています。

最近、五星紅旗に小さな星がひとつ増えたようです。それは、よく見ると、なんと「日の丸」…